

県医師連盟機関紙

第18号

発行責任者  
県医師連盟委員長 池田琢哉

令和元年6月26日

# 鹿児島県医師連盟新聞

編集・発行  
鹿児島県医師連盟  
鹿児島市中央町8-1  
電話 099-213-1011  
FAX 099-213-1012  
印刷 南日本新聞開発センター

## 尾辻氏、羽生田氏を全力で支持 (鹿児島選挙区) (全国比例区)

### 参院選 7月4日公示、21日投票

参議院議員選挙は7月4日公示、同月21日投票の日程で行われる。この選挙に、元厚生労働大臣の尾辻秀久氏が6期目を目指して、鹿児島選挙区からの立候補を表明。鹿児島県医師連盟(池田琢哉委員長)は昨年6月9日、いち早く尾辻氏の推薦を決定して、郡市医師連盟などと連携をとりながら、支持活動を積極的に展開中だ。また、比例代表では、元日本医師会副会長で2期目を指す羽

#### 尾辻氏大差での勝利を

鹿児島選挙区から出馬する自民現職の尾辻氏に関しては、鹿児島県医師連盟が昨年6月、いち早く推薦を決めた。その理由として、池田委員長は「医療・福祉の

分野に精通しておられ、厚生大臣や副議長の要職も務められた。鹿児島県における我々の医療政策実現にも多大なご尽力をいただいていることなどを挙げた。

生田たかし氏を推薦している。選挙区の尾辻氏は、他候補に大差をつけての勝利を、比例区の羽生田氏は、大量得票での上位勝利へ向けて浸透を図る構え。池田委員長は「令和に入ってから、初めての国政選挙。どちらの選挙も、日本医師連盟、鹿児島県医師連盟の威信を懸けた戦いになる」と決意を語っている。

医師連盟が推薦を決めたあと、自民党鹿児島県連内で候補者の調整が行われた結果、同年6月16日尾辻氏を公認候補予定者に決定。その後自民党の公認候補として、正式に決まった。

尾辻氏は78歳。県議を経て1989年参院選挙の比例代表で初当選。参院議員

5期のベテランで、これまで財務副大臣、厚生労働大臣、参院副議長、自民党参院会長などの要職を歴任しており、その政治手腕、政治理念は高い評価を得ている。尾辻氏は平成31年4月27日の事務所開きで挨拶し、「皆様のご支援に恥じないよう、選挙を戦い抜き、当選させていただいたら、ただ

ひたすら国と国民の為に働きます」と決意を述べた。池田委員長は「鹿児島にとっても、我々医療関係にとっても、なくてはならぬ存在。圧勝をめざし、戦い抜く」と決意を語っている。

令和元年6月15日には、鹿児島県医師連盟主催の「羽生田たかし候補・尾辻秀久候補総決起大会」が県医師会館4階大ホールで開かれ、日本医師連盟の平川俊夫参事、自民党国対委員長で、県連会長の森山裕衆院議員をはじめ、地元選出国會議員や、鹿児島県の医療関係者が多数参加、両候補を激励し、全力で戦うことを誓った。

#### 羽生田氏、前より「上位」で「期目の国政へ

比例区では、自民党公認で2期目を指す元日医副会長の羽生田たかし氏を推薦しており、池田委員長は「鹿児島県医師連盟の総力を挙げて、前回以上の勝利を目指したい」と決意を表

明している。羽生田候補に関しては、昨年7月3日の日本医師連盟執行委員会で、羽生田氏を次期参院選比例代表候補者に推薦することを全会一致で決定し、自民党に公認

を申請した。自民党は同年7月20日、羽生田議員を第一次公認候補に決定している。

#### 圧倒的勝利に向かって

県医師連盟委員長 池田琢哉

7月の参院選挙は、県医師連盟の組織力、医政への取り組みが問われる重要な選挙になると考えます。国の医療政策に我々の声を反映させるた

めにも、尾辻先生、羽生田先生の圧倒的勝利のために、先頭に立って奮闘する決意であります。

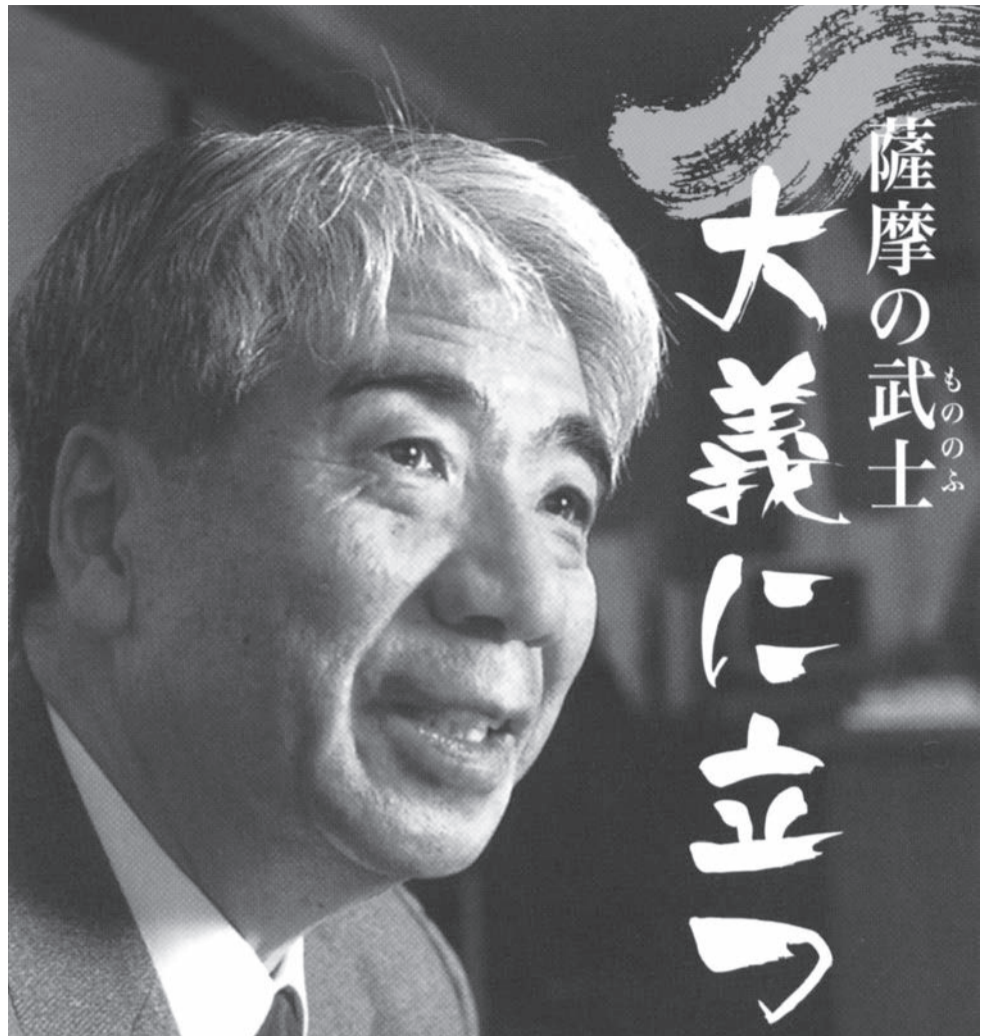
尾辻先生は、厚生労働大臣を務められるなど、厚生行政、医療に精通しておられ、これまで、がん対策基本法や、成育基本法の制定に尽力していただきました。「子供は日本の宝」と、子育て政策にも力を注いでおられます。何として



も国政に送り出さねばなりません。羽生田先生は、医療政策全般に精通しておられ、日医の政策を国政で実現させることについても、十二分に力を発揮されており、また、子供たちを支援するため、成育基本法を大きく育てていきたいと張り切っておられます。会員の皆様には、友人や知人にも声をかけていただき、県医連が「一丸」となれば、信じて疑いません。共にがんばりましょう。

尾辻先生は「すべての人にやさしい医療を。」

大義に立つ。



## すべての人にやさしい 医療・介護を

- 日本の未来を産み育てる法律の充実に取り組みます  
妊娠期(胎児期)から新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期の各段階を経て成人期の産み育てる側となる切れ目のない連のサイクルでとらえた、昨年12月8日に成立した「成育基本法」が充実した運用を成されるべく、成育医療等協議会の設置や運営が地域に見合った体制となるようつとめます。
- 国民皆保険を守ります  
誰もが、いつでもどこでも、最良の医療を受けられるように、国民皆保険を守り、国民が必要とする医療を、最適なかたちで受けられることのできる社会をつくります。
- 被災地の方々の健康維持に努めます  
今なお不自由な生活を余儀なくされておられる被災された方々に寄り添いながら一日も早い復興政策に尽力します。被災者健康支援連絡協議会事務局長の経験を生かし、参議院東日本震災復興特別委員会委員として、心の支えを必要とする医療提供体制の充実と継続的支援に努めます。
- 地域に密着した医療・介護・福祉を創ります  
身近で、暮らしと強く結びついた地域医療を目指して、地域の皆様の安心な毎日のため、高齢社会を踏まえ、それぞれの地域に応じた医療・介護・福祉など提供体制を充実します。
- 永年の医師会経験を生かした医療政策の提言をします  
昭和62年から前橋市医師会理事、群馬県医師会理事、日本医師会副会長などを歴任し、永きに渡り医師会活動に従事した経験を生かして、地域医療を守るという観点から山積する諸課題にしっかり取り組みます。
- 地域医療と医師の健康を守る働き方改革の実現に向けて  
「地域医療の継続性」「医師の健康への配慮」という2本柱を軸に、労働時間の上限の考え方や地域医療への影響、そして患者の求める医療提供体制の整備や自己研鑽・研究と労働など、しっかりと検証した上で、自民党PT座長として示すべき方向性を導きます。
- 医師と患者の信頼関係を構築します  
患者会、日本医師会とともに、わが国の医療のすがたを患者・国民と医師・医療との間の信頼関係に根ざしたものとしていくために、「医療基本法」の制定を目指しています。

**個人名で投票を**  
比例代表の選挙では、「政党名」もしくは「個人名」で投票します。政党名の投票者数とその政党の属する候補者への個人名での投票数を合計し、その投票数に応じて各政党への議席配分が決まります。その議席配分から「個人名」での投票数の多い順に当選者が決まります。候補者の政策などを吟味して、ぜひ個人名での投票を。

## 虫の眼をもって 政治活動

- 政治家は全体をみる鳥の目と細かいところをみる虫の目が必要だが自分は虫の目を持って政治活動にのぞむ。光のあたらないところに光を当てたい。
- 平和な国  
・初心を忘れず、恩を忘れず、いつまでも「ご英霊(国のために亡くなった方)の心を心として」平和な国を護ります。  
・調和のとれた社会が理想です。  
国と地方、政と官と民、共にぎすぎすしないように「和をもって尊し」とします。
  - 生涯現役社会の実現  
・健康寿命(健康にいきている年齢)を85歳(女性の平均寿命)に引き上げられるように、がん対策、生活習慣病対策、自殺対策、運動器健康維持対策など、保険と医療の充実・促進に努めます。  
・定年制の廃止を目指します。
  - ユニバーサル(共生)社会の実現  
・人間一人ひとりが、尊厳を持って生きることのできる社会づくりをいたします。  
・みんなが「誇りと役割を持って生きていくことの大切さ」を実感できる社会を目指します。  
・「機会均等社会」にします。生まれや育ちでスタートラインに差があってはけません。  
(3歳で父を亡くし、20歳で両親を失った私の痛切な思いです)
  - 心と体に優しい国  
・「食育」は、個々の健康のためにも、美しい家庭を守るためにも重要なことです。「食育」という日本の伝統を大切にします。
  - 子供は日本の宝  
・産みやすい環境をつくることももちろん大切ですが、産まれてきた子どもを大切に育てることが最優先の少子化対策であると考えています。  
そのために保育所の役割はますます重要です。  
保育制度を死守します。  
地域全体による子育て、教育は薩摩の文化・伝統です。
  - 社会保障の拡充  
・日本の宝である国民皆年金(みんなが年金に加入している)制度と皆保険(みんなが医療保険証を持っている)制度は、どんなことがあっても守っていきます。  
・負担された保険料は、全て年金給付につながるようにします。  
・国民負担率(収入のうち、公的保険の保険料を含めて税金を納める割合)を50%にして、弱者に優しい国にしたいと考えています。  
・「消費税を上げ、その分を福祉に使う目的税にすべき」が私の持論です。